KANAZAWA COLLEGE OF ART

NEW CAMPUS PLAN

金沢美術工芸大学
移転整備基本構想

金沢市

～金沢美術工芸大学移転整備基本構想の策定にあたって～

金沢は、藩政期から培われてきた歴史や伝統、学術、文化を保存・継承すると同時に、これらに新しい価値を加えながら、創造的なまちづくりを進めてきました。

このようなまちの個性、他都市にはない魅力をさらに高め、市民が誇れるまちであり続けるためには、世界の「交流拠点都市金沢」として、これまでに培われたストックを最大限に活用することにより、国内外から人・モノ・情報の集積を図り、その交流を通じて新たな価値を創造し、持続的な発展を続けることが重要です。

その実現に向け、平成 26 年に『世界の交流拠点都市金沢重点戦略計画』を策定し、金沢美術工芸大学の移転整備を重点施策の一つとして位置づけました。

その金沢美術工芸大学は、全国多数の都市が灰燼に帰した昭和 20 年、「美術工芸の伝統を維持してきた本市が戦後日本の文化興隆の一翼を担うことは非戦災都市としての義務である」として、多くの市民、先人達が、設立に向けて奔走し、昭和 21 年 11 月 7 日に開学した金沢美術工芸専門学校が、その原点です。「美の創造を通じて人類の平和に貢献する」ことを理想に掲げ、昭和 30 年には柳宗理氏等を教授に迎えて４年制大学となり、美術・工芸・デザインの各分野において、個性豊かな教育等に取り組み、これまでに多くの人間国宝や第一線で活躍するクリエイターを輩出し、国内外の文化・芸術の発展を支えてきています。

しかしながら、金沢美術工芸大学の活動拠点である現キャンパスは、開校以来 40 年が経過し、老朽化が進むとともに、教室や作業スペースも充分に確保できないことから、平成 28 年２月 26 日に金沢美術工芸大学から、美の創造を通じた社会貢献と、地域に根ざし、世界に拓かれた創造拠点をめざすため、新キャンパス構想をまとめた報告書をいただきました。私は、この報告書に含まれている大学の熱い思いをしっかり受け止め、今般、今後の整備方針等をまとめた「金沢美術工芸大学移転整備基本構想」を策定しました。

本市の発展に大きく寄与してきた金沢美術工芸大学は、開学から 70 年を迎えた記念すべき年に、大きな一歩を踏み出そうとしています。文教地区である金沢大学工学部跡地への移転整備は、大学の発展とともに、本市の品格のさらなる向上に大きく貢献するものであり、また、この基本構想がそれらに資する充分な内容であると確信をしています。

結びに、本構想の策定にあたり、ご熱心にご議論いただきました金沢美術工芸大学移転整備基本構想検討懇話会の委員の方々をはじめ、貴重なご意見、ご提案をお寄せくださいました市民の皆様やご協力をいただいた関係各位に心から感謝を申し上げます。

金沢市長　山野　之義

目　　次

Ⅰ　金沢美術工芸大学のあゆみ
　1　大学の沿革　……　1
　2　大学の概要　……　6

Ⅱ　現キャンパスの現状と課題
　1　現状（立地状況と施設の概要）　……　7
　2　課題　……　10

Ⅲ　移転整備に係るこれまでの経緯
　1　世界の交流拠点都市金沢重点戦略計画　……　12
　2　金沢美術工芸大学新キャンパス構想　……　12
　3　金沢美術工芸大学第２期中期目標　……　13

Ⅳ　金沢大学工学部跡地（移転予定地）の概要
　1　移転予定地取得の経緯　……　14
　2　移転予定地の概要　……　14
　3　移転予定地の現況　……　15
　4　金沢市の取得予定面積　……　17
　5　周辺の動向　……　18

Ⅴ　移転整備の基本理念
　1　美の創造を通じて人類平和に貢献する人材育成　……　19
　2　金沢に根ざす美と知の創造拠点　……　19

Ⅵ　基本理念を実現するための施設整備方針
　1　施設整備の方向性　……　20
　2　整備方針　……　20

Ⅶ　施設配置の考え方・留意事項・課題等
　1　施設配置の考え方　……　28
　2　施設配置・周辺との調和　……　28
　3　移転整備における留意事項・課題等　……　29

参考資料　……　30

Ⅰ　金沢美術工芸大学のあゆみ

１　大学の沿革

（１）大学憲章

金沢美術工芸大学は、昭和 21 年、戦後の混乱と虚脱のなか、学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により、工芸美術の継承発展と地域の文化と産業の振興をめざし創立されました。

以来、金沢美術工芸大学は豊かな自然環境と歴史的遺産のなかで、美術・工芸・デザインの分野における個性豊かな教育と学術研究に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担ってきました。

素材を知り、技を磨き、現代に生きる表現を高めるべく「ものづくりの精神」を尊び、幅広い人間性に裏付けられた理論と技術の彫琢をとおして、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成し、世界における創造の機会の拡大と多様化に資するために、金沢美術工芸大学は知と創造の拠点となることをめざしています。

（２）大学の活動指針

- **創作の意欲と能力を育てる教育の推進**（Creative Potential）
  地域の文化資源を活用し、「手で考え、心でつくる」をモットーに創造力を高め、人間味あふれる個性と倫理を涵養し、未来社会を拓くクリエイターの育成をめざします。

- **質の高い研究とオリジナリティの追求**（Professional Individuality）
  深く芸術の神髄を探究し、諸分野における卓越した知識と技術の継承によって、固有の芸術領域を開拓し、創造的かつ先端的な文化の発信母体となります。

- **地域と世界に貢献する芸術活動の展開**（Public Contribution）
  市民から愛され、尊敬される芸術文化教育の中核を担い、地域社会の活性化と人々の幸福を願い、地球社会の平和と共存に貢献します。

- **自立した大学の運営と公共性を重んじる組織の発展**（Institution Independence）
  社会の変化に迅速かつ的確に対応できる教育体制と事務組織を構築し、自己決定、自己責任に基づく自主自立の大学運営をめざします。

（３）歴史的背景

①金沢美術工芸専門学校として開学

金沢美術工芸大学は、昭和 21 年に非戦災都市として美術工芸の伝統をそのまま継承してきた金沢市において、古来九谷焼、輪島塗を含む陶磁器、漆器類、金銀細工、金銀箔類、刺繍、織物、染物等の美術工芸品の生産量が多い地域特性を生かし、文化の向上に資することをめざした「金沢美術工芸専門学校」として開学しました。

さらに、学校と地域産業が連携して学理と技術を業界に導入することで、地域産業の振興に資することや、地方の学生が戦後混乱期の戦災都市ではなく地方部において進学できることも設立認可申請書の目的に示されています。

設立認可申請書には、「金沢美術専門学校」と記載されていましたが、認可書は「金沢美術工芸専門学校」となっており、当時、すでに東京に官立の東京美術学校、京都に市立京都絵画専門学校があったため、金沢は工芸王国石川の特徴を生かす「工芸」の二文字を挿入したと言われています。

昭和 21 年３月 22 日、金沢美術工芸専門学校新設のため、石川県特別物件処理委員会より金沢市下本多町３番丁の旧金沢陸軍兵器庫（現石川県立歴史博物館）の使用許可、7 月 13 日文部大臣より設置許可を受け、内部改装を突貫工事で開始し、11 月に開学式典が挙行されました。

【旧校舎の様子】

出典：金沢美術工芸大学 50 年史

②４年制 金沢美術工芸大学のはじまり

昭和 25 年に３年制の金沢美術工芸短期大学が設立し、昭和 30 年には４年制の金沢美術工芸大学となりました。昭和 45 年には、金沢刑務所の田上町移転に伴う代替地として金沢市に引き渡された跡地（小立野５丁目 11 番１号）への移転が決定し、昭和 47 年に校舎が完成しました。

【現キャンパス完成時の本館棟（昭和 47 年）】

出典：金沢美術工芸大学 50 年史

③教育研究機能の強化に向けた事業の展開

昭和 58 年には、企画委員会より、研究所の充実に関する事業が謳われた「金沢美術工芸大学整備充実計画」が学長に答申され、大学の広範囲の活動が『学術研究開発』、『資料収集と展示』、『情報提供および文化交流』の３つの部門にまとめられました。

昭和 59 年には、美術工芸研究所棟の基本設計に着手し、昭和 61 年に完成しました。以降、教育研究センター、産学連携センター、地域連携センター、国際交流センター機能のほか、金沢美術工芸大学柳宗理記念デザイン研究所を備え、様々な教育研究活動を実施しています。

【現キャンパス全景】

出典：金沢美術工芸大学 50 年史

（４）大学の沿革

年　次	内　　容
昭和 21 年	・本多町３番丁（現出羽町）に金沢美術工芸専門学校 （本科３年、予科１年制、美術科 45 人、陶磁科 30 人、漆工科 30 人、金工科 15 人、計 120 人）を設立
昭和 25 年	・金沢美術工芸短期大学 （３年制、美術科 45 人、工芸科 75 人、計 120 人）を設立
昭和 30 年	・金沢美術工芸大学〔４年制、美術学科（絵画専攻・彫刻専攻）40 人、産業美術学科（商業美術・工業意匠）60 人、計 100 人〕を設立
昭和 40 年	・美術学科定員を１学年 40 人から 55 人に増員、商業美術、工業意匠を商業デザイン専攻、工業デザイン専攻に変更 ・産業美術学科に工芸・繊維デザイン専攻（15 人）を設置、計 130 人
昭和 41 年	・教職課程（正規・聴講）を設置 ・図書館及び実験研究棟が竣工
昭和 45 年	・伝統工芸聴講生制度を設置（～平成 23 年）
昭和 46 年	・博物館学課程を設置
昭和 47 年	・美術工芸研究所を設置 ・小立野５丁目 11 番１号に新校舎が完成 （敷地面積 57,242.88 ㎡、建物面積 15,026.93 ㎡）
昭和 48 年	・研究生制度を設置 ・市民講座を開設（～平成 18 年）
昭和 49 年	・工芸・繊維デザインを工芸デザイン専攻に変更
昭和 52 年	・市民工房を開設（～平成 16 年）
昭和 54 年	・大学院修士課程（絵画・彫刻専攻、産業デザイン専攻）を設置
昭和 55 年	・大学院棟が完成 （鉄筋コンクリート造３階建、建物面積 3,366.85 ㎡） ・夜間教養講座を開設（～平成３年）
昭和 60 年	・石彫棟を新築
昭和 61 年	・美術学科に芸術学専攻（10 人）を設置 ・美術工芸研究所棟（４階建、建物面積 3,364.70 ㎡）、美大ホール（500 席、建物面積 1,331.01 ㎡）が完成
平 成 2 年	・大学院（芸術学専攻修士課程）を設置
平 成 3 年	・工芸デザイン専攻定員を１学年 15 人から 20 人に増員、計 145 人

年　次	内　　容
平成 4 年	・工芸実習棟（３階建、建物面積 3,610.19 ㎡）が完成
平成 5 年	・共通造形センターが発足（～平成 22 年）
平成 5 年	・学生食堂を増改築（建物面積 427.96 ㎡）
平成 6 年	・集会ホール（多目的室）を改築（改築面積 446.34 ㎡）
平成 8 年	・学科再編により美術科（日本画専攻・油画専攻・彫刻専攻・芸術学専攻）65 人、デザイン科（視覚デザイン専攻・製品デザイン専攻・環境デザイン専攻）60 人、工芸科 20 人が発足
平成 9 年	・大学院博士課程（美術工芸専攻博士後期課程）を設置
平成 10 年	・国際的芸術家滞在制度を発足（～平成 18 年） ・芸術学専攻、デザイン科３専攻が推薦入学を実施
平成 12 年	・図書館棟の増築が完成（３階建、建物面積 2,224.83 ㎡に）
平成 12 年	・大学院修士課程の再編により（絵画・彫刻・芸術学・工芸・デザイン専攻）の５専攻が発足
平成 13 年	・運営諮問会議を設置（～平成 22 年）
平成 13 年	・映像メディア室を設置
平成 15 年	・前庭修景整備、テニスコート、クラブハウスが完成
平成 17 年	・大学院修士課程（デザイン専攻）にファッションデザインコースを設置 ・美術工芸研究所に産学連携センターを設置
平成 18 年	・美術工芸研究所を再編し、教育研究センター、地域連携センター、産学連携センター、国際交流センターの４センターを設置
平成 19 年	・美術工芸研究所を造形芸術総合研究所に改称 ・芸術学専攻定員を１学年 10 人から 15 人に増員
平成 20 年	・財団法人大学基準協会の大学基準適合認定
平成 22 年	・公立大学法人金沢美術工芸大学に移行 ・アートギャラリー開設 ・造形芸術総合研究所を美術工芸研究所に改称
平成 23 年	・問屋まちスタジオ開設 ・アートベース石引開設
平成 24 年	・基礎実習棟が完成（平屋建、建物面積 94.25 ㎡）
平成 26 年	・柳宗理記念デザイン研究所を開設

2　大学の概要

（１）組織

（２）専攻別教員数・学生数（平成 28 年５月１日現在）

■教員数

学科専攻		教員数
美術科	日本画	5
	油画	6
	彫刻	5
	芸術学	5
デザイン科	視覚デザイン	5
	製品デザイン	5
	環境デザイン	5
工芸科		12
一般教育等		8
大学院		7
合計		**63**

■学部（学生数）

学科専攻		1年	2年	3年	4年	合計
美術科	日本画	15	17	16	12	**60**
	油画	25	26	25	26	**102**
	彫刻	15	15	19	14	**63**
	芸術学	17	16	17	18	**68**
デザイン科	視覚デザイン	20	21	20	24	**85**
	製品デザイン	20	26	18	23	**87**
	環境デザイン	20	21	22	19	**82**
工芸科		20	22	22	27	**91**
合計		**152**	**164**	**159**	**163**	**638**

■修士課程（学生数）

専攻	1年	2年	合計
絵画	12	10	**22**
彫刻	4	2	**6**
芸術学	1	4	**5**
工芸	9	12	**21**
デザイン	7	10	**17**
合計	**33**	**38**	**71**

■博士後期課程（学生数）

専攻	1年	2年	3年	合計
美術工芸	2	5	7	**14**

Ⅱ　現キャンパスの現状と課題

１　現状（立地状況と施設の概要）

（１）立地

現キャンパスは、市役所から東南東 1.9 ㎞離れた、浅野川と犀川に囲まれた小立野台地に位置しており、医王山を背景とする豊かな自然環境に囲まれた学舎は名実ともに芸術系大学としての風格を有しています。敷地内は大学のシンボルである「けやき」の植樹をはじめ、敷地内緑化が十分に配慮され、森の都金沢のイメージにふさわしい景観を形成しています。また、昭和 48 年度から 49 年度には、校舎周辺や前庭等の造園整備工事、池の新設等が行われ、その後大学院棟や研究所棟等の増築、工芸実習棟の新設、厚生施設の改築等を経て、平成４年にキャンパスは、ほぼ現在の形となりました。

用途地域は第二種中高層住居専用地域であり、高度地区による高さ制限は12ｍから20ｍ以下に指定されています。風致地区にも隣接しており、キャンパスは、住宅や自然地に囲まれています。

【現キャンパス周辺の状況】

（２）施設配置と規模

敷地の総面積は、約 5.5ha（54,840 ㎡）となっていますが、小立野台地の斜面緑地を除いた面積は約 4.4ha（赤線で囲まれた部分）であり、本館棟、図書館棟、研究所棟、大学院棟、工芸実習棟、体育館棟、研修棟、石彫棟、美大ホールの９棟が立地し、建物全体の総延床面積は 27,953 ㎡となっています。

【敷地内の施設配置】

（３）主な施設の概要

名　称	建築年次	概　　要
本館棟	昭和 47 年	４階建、　延床面積　9,080.63 ㎡
図書館棟	昭和 47 年	３階建（地下１階）、延床面積　2,224.83 ㎡
体育館棟	昭和 47 年	３階建、延床面積　3,904.31 ㎡
大学院棟	昭和 55 年	３階建、延床面積　3,366.85 ㎡
研修棟	昭和 57 年	２階建（木造）、延床面積　267.42 ㎡
石彫棟	昭和 60 年	平屋建、延床面積　306.67 ㎡
美大ホール	昭和 61 年	２階建（地下１階）、延床面積　1,331.01 ㎡
研究所棟	昭和 61 年	４階建、延床面積　3,364.70 ㎡
工芸実習棟	平成４年	３階建、延床面積　3,610.19 ㎡
運動場	―	敷地面積　12,649.00 ㎡

本館棟

延床面積：9,081 ㎡
建　築　年：昭和 47 年

図書館棟

延床面積：2,225 ㎡
建　築　年：昭和 47 年

体育館棟

延床面積：3,904 ㎡
建　築　年：昭和 47 年

大学院棟

延床面積：3,367 ㎡
建　築　年：昭和 55 年

研修棟

延床面積：267 ㎡
建　築　年：昭和 57 年

石彫棟

延床面積：307 ㎡
建　築　年：昭和 60 年

美大ホール

延床面積：1,331 ㎡
建　築　年：昭和 61 年

研究所棟

延床面積：3,365 ㎡
建　築　年：昭和 61 年

工芸実習棟

延床面積：3,610 ㎡
建　築　年：平成４年

２　課題

（１）施設の老朽化

昭和 47 年に現在地（小立野５丁目 11 番１号）に開校して以来、40 年以上が経過した建物があり、施設の一部では、ひび割れや雨漏りの発生、天井の剥離等の老朽化が著しく進行しています。また、建物の中には、新耐震基準を満たしていないものもあり、耐震性の確保が急務となっています。

安全で快適な教育研究環境を確保するためには、施設の老朽化の改善及び耐震性の確保が求められています。

【外壁面のひび割れ】

【転落防止柵の劣化】

【屋根材の剥離】

（２）機能強化のためのスペース不足と芸術分野の多様化、新規分野への対応

近年、学生数の増加や保管作品の増加・大型化により、施設内の各種教室や作業スペース、収納スペースが確保できず、廊下等の共有スペースに作品や資材等が溢れるなど、スペース不足が課題となっています。

また、時代の変化や芸術活動の多様化等に伴い、社会連携、国際交流、マルチメディアなど、多くの機能が必要となっていますが、現施設での機能強化は困難な状況です。

時代のニーズに応じた人材を育成するため、教育研究環境の充実や機能拡充など、教育内容の強化を図るためのスペース確保が求められています。

（３）非効率な施設配置

現キャンパスは､新たな機能の追加や大学院棟、研究所棟、工芸実習棟の増設、図書館棟の増改築が行われてきたことにより、キャンパス内での移動や活動が非効率な状態となっています。

施設の利便性や作業効率の向上､専攻間の連携強化を図るため、学生や教職員、来訪者の動線を考えた有機的な施設配置が求められています。

（４）ユニバーサルデザインへの対応

現キャンパスでは、スロープの設置等のバリアフリー化に努めていますが、段差解消が困難な部分があり、全面的なバリアフリー対応が難しい状況となっています。

現段階においては、車椅子を使用する学生がいないなど、バリアフリーに対する大きな支障はないものの、今後、学生や教職員、関係者等の多様な人々の利用に配慮した、人に優しいユニバーサルデザインに基づく機能の充実が求められています。

Ⅲ　移転整備に係るこれまでの経緯

現キャンパスの開校以来、40 年以上が経過し、施設の老朽化やスペース不足等の課題が顕在化したことから、本市では、平成 26 年に策定した『世界の交流拠点都市金沢重点戦略計画』において、金沢美術工芸大学の移転整備を重点施策として位置づけました。

金沢美術工芸大学では、平成 28 年２月に金沢大学工学部跡地を移転予定地とした『新キャンパス構想』を、本市では同年４月に『公立大学法人金沢美術工芸大学第２期中期目標』を策定し、今後の金沢美術工芸大学のあり方や目標等を示しています。

１　世界の交流拠点都市金沢重点戦略計画（平成 26 年２月）

本市では、金沢美術工芸大学の移転整備について、『重点戦略計画』で「手狭で老朽化が進む金沢美術工芸大学の改築に向けて、文教地区にふさわしい施設整備をめざし、金沢大学工学部跡地への移転を検討する」としています。

２　金沢美術工芸大学新キャンパス構想（平成 28 年２月）

本市の『重点戦略計画』に金沢美術工芸大学の移転整備が掲げられたことを受け、金沢美術工芸大学では、平成 26 年度から２ヶ年をかけ、『金沢美術工芸大学新キャンパス構想』を策定しました。同構想では、施設の老朽化や芸術表現の多様化に伴う狭あい化等の課題のほか、新キャンパスの基本理念、めざすべき方向性が示され、平成 28 年２月、市長へ報告書が提出されました。

【新キャンパスの基本理念とめざすべき方向性】

３　金沢美術工芸大学　第２期中期目標（平成 28 年４月）

本市では、『金沢美術工芸大学は、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成し、世界における創造の機会の拡大と多様化に資するために、知と創造の拠点となることをめざす』こととし、下記のとおり、金沢美術工芸大学第２期中期目標を定めています。

（１）未来へつなぐ新しい芸術教育

専門的で基礎的な造形力をはぐくむ学部教育の充実と、分野を横断して自由で多様な独創性を実現する大学院教育の改革に取り組みます。

（２）国際的に展開する芸術の研究拠点

学生、教員による教育研究における国際交流を拡大するとともに、芸術に関する国際的水準の研究を計画的に推進します。

（３）地域に開かれた親しみあるキャンパス

地域に開かれた大学として、蓄積された知的資源を市民・地域に還元するとともに、芸術を学ぶ多彩な機会を提供します。

Ⅳ 金沢大学工学部跡地（移転予定地）の概要

1　移転予定地取得の経緯

これまで本市は、まちの個性である歴史や伝統、学術、文化を保存・継承するとともに、歴史都市と創造都市の取り組みを両輪に創造的なまちづくりを進めてきました。

また、金沢大学工学部は、平成 19 年に角間地区に移転しましたが、その跡地は、まちなかの広大かつ貴重な公共用地であると同時に、本市まちづくりにも大きな影響を与えることから、その利活用について、金沢大学、石川県及び金沢市の三者が相互に連携を図りながら、検討を進めた結果、「文教地区にふさわしい公共が関わる利活用を図るべき土地」として、県市で工学部跡地を取得し、活用することとなりました。

本市の文化・芸術の発展のみならず、ユネスコ・クラフト創造都市の取り組みの一助を担ってきた金沢美術工芸大学を工学部跡地に移転整備することで、まちの新たなシンボルとして、文教地区のまちづくりに大きく貢献できることが見込まれます。

2　移転予定地の概要

移転予定地は、これまで 90 年近く教育機関が立地してきました。大正９年には、金沢大学理工学域の前身である金沢高等工業学校が（昭和 19 年に金沢工業専門学校に改称）、昭和 24 年には、直近の教育機関である金沢大学工学部が建設された歴史があります。

【移転予定地の位置】

全体の敷地面積は約 8.4ha（83,902 ㎡）で、用途地域は第二種中高層住居専用地域（建ぺい率：60%、容積率：200%）、高度地区は 15mに指定されています。

３　移転予定地の現況

金沢大学工学部跡地内は研究棟が撤去され、当時の植栽や共同溝等の構造物が残されているほか、敷地南側は土地利用や隣接する道路との高さ合わせのために設けられた段差が生じています。また、敷地周辺には住宅地が隣接し、辰巳用水が流れています。

【敷地内及び周辺の状況】

①研究棟等が撤去された敷地

②敷地と隣接して立地する住宅

③旧工学部で使用された構造物（共同溝）

敷地外縁部や中央部に残る樹木
（④：外縁部の樹木、⑤：中央部の樹木）

⑥敷地周辺を流れる辰巳用水

旧工学部の土地利用（研究棟、運動場）や隣接する道路との高さ合わせのために生じた段差
（⑦敷地外縁部の段差（隣接道路との高さ合わせ）、
⑧敷地南側の段差（研究棟と運動場の境界）、
⑨敷地北側（フラットな状態））

【現況写真位置図】

所 在 地　小立野 2 丁目 933
敷地面積　83,902 ㎡
用途地域　第二種中高層住居専用地域
高度地区　高さ制限 15m以下

4　金沢市の取得予定面積

移転予定地へのアクセス向上を図るため、県道金沢湯涌福光線（小立野通り）から敷地を横断し、県道芝原石引町線を経て、金沢外環状道路山側幹線に接続する道路整備が予定されています。

敷地正面の崎浦交差点から既存の進入道路を活用した道路整備を想定すると、兼六園側約 3.4ha と湯涌側約 4.7ha に分割されます。このことを踏まえ、石川県と本市で協議した結果、本市は、現キャンパスの斜面緑地を除いた面積より広い、工学部跡地の湯涌側約 4.7ha を金沢美術工芸大学の移転予定地として取得し、整備します。

なお、敷地内を横断するアクセス道路については、県道金沢湯涌福光線（小立野通り）と県道芝原石引町線を接続する県道として、今後、詳細な道路線形が決定される予定です。

５　周辺の動向

石川県は、平成 28 年３月に策定した石川県長期構想において、生涯にわたり学び続ける環境づくりを掲げ、県立図書館の機能強化を推進していくこととしています。

具体的には、県立図書館を金沢大学工学部跡地に移転・建替し、県民の知の拠点として機能や施設の充実を図ることとしています。また、公文書館機能や生涯学習機能の併設等も含めた検討を進めることとしています。

Ⅴ　移転整備の基本理念

大学憲章に基づき、２つの基本理念を下記のとおり設定しました。

１　美の創造を通じて人類平和に貢献する人材育成

２　金沢に根ざす美と知の創造拠点

１　美の創造を通じて人類平和に貢献する人材育成

金沢美術工芸大学は、戦後の混乱と虚脱のなか、昭和 21 年に、学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により、工芸美術の継承と発展、地域の文化と産業の振興をめざして創立され、以来 70 年にわたって多くの美術家、工芸家、デザイナー、研究者等を輩出してきた美術系教育研究機関の最高学府です。

移転整備において適切な規模と必要な設備を整え、金沢美術工芸大学で、これまで取り組んできた高い教育水準を維持しつつ、美術・工芸・デザインの分野における質の高い教育研究を実践することで、様々な資質や能力を備える学生の高い専門性と豊かな人間性を育みます。また、美の創造を通じて人類の平和に貢献する人材を育てるとともに、国内外の美術系教育研究機関や他分野との連携による高度な学術研究を推進していきます。

２　金沢に根ざす美と知の創造拠点

金沢美術工芸大学は、伝統文化が息づく金沢に根ざす美と知の創造拠点として、ものづくり産業における新製品開発支援等の産学連携、ホスピタリティアートプロジェクト等のまちの魅力創出に向けた地域連携、平成の百工比照の収集をはじめとする美術、工芸、デザインに関する調査研究を実施し、地域に開かれた大学としての役割を果たしてきました。

今後、少子高齢化の進展など、課題が多様化するなか、金沢美術工芸大学では、地域貢献の質的向上を図るとともに、ユネスコ・クラフト創造都市にふさわしい美と知の創造拠点としての飛躍をめざした国際交流機能を強化し、海外を含め、様々な創造活動が交流する拠点の形成をめざします。

Ⅵ　基本理念を実現するための施設整備方針

１　施設整備の方向性

- **金沢から世界に拓く　美と知の創造拠点**
- **地域と学生をつなぐキャンパス**

・　金沢から世界に拓く　美と知の創造拠点

金沢美術工芸大学は、「美の創造を通じて人類の平和に貢献する」ことを理念に掲げ、これまでに多くの人間国宝や美術家、工芸家、研究者、デザイナー、クリエイター、アーティストを輩出し、国内外の文化・芸術の発展に大きく寄与してきました。

開学 70 周年の節目を迎えた金沢美術工芸大学のさらなる飛躍を図るため、世界の交流拠点都市金沢の新たなシンボルとして、美と知の創造拠点の形成をめざします。

・　地域と学生をつなぐキャンパス

少子高齢化やグローバル化など、社会が大きく変化するなか、地域に開かれた大学として、ものづくり産業における産学連携、まちづくりにおける地域連携に取り組み、地域の活性化に貢献してきました。

これまでの取り組みをさらに継続・発展させ、大学と地域、学生と地域をつなぐための施設整備を推進します。

整備にあたっては、基本理念や方向性の実現に向け、互いに刺激しあいながら創造性に溢れた人材の輩出につながり、柔軟性と機能性を兼ね備え、芸術系大学にふさわしく、かつ金沢の新たなシンボルとなるよう、質の高い創造的な建築デザインをめざします。

２　整備方針

施設整備の方向性に沿い、３つの方針を設定しました。

方針１　未来を担う人材育成拠点

方針２　世界に飛翔する美と知の研究拠点

方針３　地域に開かれた文化芸術の交流拠点

方針１　未来を担う人材育成拠点

■　世界で活躍する人材の育成

金沢美術工芸大学で 70 年にわたり受け継がれた「ものづくりの精神」を高め、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材、世界に通じるアーティストやデザイナー等を育成するため、柔軟性を兼ね備えた演習室や実習室、制作室等を配置し、互いに刺激しあいながら創造的な感性が磨かれるような施設整備に取り組みます。

多摩美術大学情報デザイン棟

世界で活躍するアーティスト等の招聘

出典：金沢美術工芸大学パンフレット(2016)

■　芸術教育の基盤となる学部教育の環境整備

これまでの伝統を継承し、美術・工芸・デザインなど、芸術教育の基盤となる学部教育において、専門的で基礎的な造形力を育み、分野間や専攻間で相互に刺激をしあう空間の創出、柔軟性の高い施設整備に努めます。

関西学院大学アカデミックコモンズ
出典：株式会社コクヨ HP

愛知学院大ラーニングコモンズ
出典：愛知学院大学

■　将来を見据えたメディア機能の充実

金沢美術工芸大学が持つ資料やデジタルアーカイブ、知的財産を管理するとともに、映像表現やアニメーションなど、未来を見据えたメディア芸術分野における人材を育てるため、スタジオや編集室等を備え、多様なメディア環境に対応した機能をメディアセンターとして整備します。

東北大学カタールサイエンスキャンパス
出典：東北大学 QSC　HP

金沢美術工芸大学

■　高度な社会人教育と外国人留学生を含めた生涯学習の推進

幅広い層の社会人や外国人留学生が新たな知識や高度な技能を習得し、生涯にわたり芸術を学べる機会の確保に努めるなど、社会人教育や外国人留学生の受入、生涯学習を推進する施設整備に努めます。

金沢美術工芸大学国際交流
出典：金沢美術工芸大学　HP

金沢美術工芸大学連続講座（美大の力）

方針２　世界に飛翔する美と知の研究拠点

■　文化芸術の研究拠点としての大学院

専門分野における独創性を有し、その領域を超えた大局観を養い、未来を切り拓き世界で活躍できるリーダー的な人材を育てるために大学院を文化芸術の研究拠点として位置づけ、複数の文化芸術分野に対応した教育研究活動を実践するための施設整備に取り組みます。

武蔵野美術大学
出典：武蔵野美術大学　HP

金沢美術工芸大学
出典：金沢美術工芸大学　HP

■　国際交流機能の強化

欧米や姉妹都市など、海外における交流協定締結校とのネットワーク強化や金沢美術工芸大学が設置したアジア美術戦略会議の開催、留学生との共同制作や交流など、文化芸術における世界的な視野で教育研究活動を実践するための機能を国際交流センターとして整備します。

金沢美術工芸大学　交流協定校（６校）

出典：金沢美術工芸大学パンフレット（2016）

■　産業との連携

地域に密着した商品開発が活発になる中、金沢美術工芸大学は企業と開発した商品・サービス数ランキングで１位を獲得した実績を有しています。これまで取り組んできた共同研究やものづくり産業との連携を積極的に推進するため、美術・工芸・デザインの各分野における研究活動や研究成果を公開するスペースを確保するなど、継続して産学連携を実践していくための機能を社会連携センターとして整備します。

ホスピタリティ・アート
プロジェクト

商業施設のオープニング
企画・プロジェクト

出典：金沢美術工芸大学パンフレット（2016）

方針３　地域に開かれた文化芸術の交流拠点

■　文化芸術の発信拠点と市民に開かれたコミュニティ空間

金沢美術工芸大学は人間国宝等の作品や平成の百工比照関連資料をはじめ、優れた美術作品や関連資料等を多数所蔵しています。これらの作品や資料を広く一般市民に公開するため、様々な展示内容に対応したスペースや収蔵機能を備えた芸術系大学にふさわしい大学附属美術館を整備します。

また、美術・工芸・デザイン関連の図書を中心に 11 万冊を超える蔵書を有する大学附属図書館のさらなる充実や美大ホールの多目的利用化を図るなど、市民が気軽に散策し、芸術に触れることができる、地域に開かれた大学としての施設整備に取り組みます。

平成の百工比照

出典：金沢美術工芸大学パンフレット（2016）

■　地域連携のさらなる充実

地域に根ざし、地域に開かれた大学として、これまで以上に社会貢献を実践していくため、美術・工芸・デザインの各分野における地域活動やその成果を公開するスペースを確保するなど、社会連携センターを整備し、地域連携のさらなる充実を図ります。

また、金沢 21 世紀美術館、金沢卯辰山工芸工房、金沢湯涌創作の森、金沢市民芸術村等が市内に集積する強みを生かし、金沢美術工芸大学との連携強化に努めます。

金沢卯辰山工芸工房

金沢湯涌創作の森

出典：金沢市観光協会　HP

■　文教地区にふさわしい地域環境の形成

これまでも高等教育機関が立地してきた小立野・崎浦地区において、金沢美術工芸大学移転予定地に隣接して、県立図書館の移転整備が予定されています。附属図書館を含む大学機能全体のさらなる充実を図り、附属図書館と県立図書館の特徴や特性を生かしながら、それぞれが文教地区にふさわしい拠点として、地域環境の形成に努めます。

多摩美術大学　図書館

国際教養大学　図書館

■　まちなかにおける活動拠点

大学の授業や制作活動、作品展示ができ、地域との交流が生まれるようなサテライト施設について、旧学校施設等の活用を検討するなど、まちなかにおける活動拠点の設置に取り組むとともに、学生が卒業後も本市で制作活動に励むことができるよう、制作・展示スペースなど、支援のあり方について検討します。

また、市内のコンベンション施設や宿泊機能を有する施設との連携強化についても検討します。

旧学校施設の活用（京都芸術センター）

整備方針の概念

○学部教育

基礎的な造形力を育み、分野間で相互に刺激をしあう空間の創出

○大学院

文化芸術の研究拠点として、複数分野に対応した施設整備

○附属図書館

美術・工芸・デザイン関連の図書を中心に地域に開かれた図書館として充実

○美大ホール

多目的利用が可能な施設整備

○附属美術館（新設）

様々な展示内容に対応し、大学所蔵作品が公開できる美術館

○国際交流センター（新設）

アジア美術戦略会議の開催や留学生との共同制作、交流を実践する機能を整備

○メディアセンター（新設）

多様なメディア環境に対応した機能を整備

○社会連携センター（新設）

企業との共同研究など、産学連携を実践するための機能を整備

○まちなかの活動拠点

まちなかの活動拠点としてサテライト施設を設置

Ⅶ　施設配置の考え方･留意事項･課題等

１　施設配置の考え方

新キャンパスは、現行の規制等を遵守し、周辺環境に配慮しつつ、現キャンパスにおける諸課題の解消に努め、教育研究機能や学内外との連携・交流機能が最大限に発揮できるよう、有機的な施設配置に取り組み、文化芸術ゾーンにふさわしい統一感のある空間を創出します。

用 途 地 域	建ぺい率	容積率	高さ規制
第二種中高層住居専用地域	６０％	２００％	１５ｍ

２　施設配置・周辺との調和

（１）柔軟性・機能性を重視した施設の配置

・　講義室や演習室、実習室や制作室等は分野間の連関性を踏まえ、共有化を図りつつ、可能な限りフレキシブルに使用できる施設配置を検討し、教育研究活動の充実と創作活動にふさわしい空間の創出を図ります。
・　敷地を有効活用するため、学生生活に欠かせない教育研究機能や事務局機能、福利厚生機能は、敷地中央に集約し、機能的な施設配置を検討します。
・　彫刻作品等の制作活動で騒音の発生が想定される実習棟は、大型作品の制作にも対応できるよう、空間の高さを確保するとともに、可能な限り敷地の中央部に配置します。
・　作品等の収蔵スペース、倉庫等を可能な限り確保するよう検討します。
・　附属美術館や生涯学習機能等の附属施設は、市民が利用しやすい配置を検討します。
・　駐車場や駐輪場は必要台数を確保するよう検討します。

（２）安全で快適なキャンパスライフを実現するための施設整備

・　安らぎや憩いの空間の確保に配慮した施設整備に取り組みます。
・　様々な立場の人が安心して利用し、学ぶことができるよう、ユニバーサルデザインに基づく施設整備に取り組みます。
・　学生や教職員、来訪者の安全を確保するため、災害に強い安全性と災害時における地域防災拠点機能を備えた施設整備に取り組みます。

（３）緩衝緑地など、周辺環境に配慮した施設配置

- 　制作活動で発生する騒音など、周辺の住環境に配慮するとともに、ＬＥＤ照明の導入等による省エネ機能の向上を図ります。
- 　本市の豊かな自然環境を生かすとともに、学内における排水処理の徹底に努め、環境にやさしいエコキャンパスを推進します。
- 　住宅地と隣接する境界部には、緩衝機能を有する高木等の植栽や施設の圧迫感を軽減するための運動場やテニスコートを配置します。
- 　緩衝緑地帯となる部分については、地域の植生や自然観察ができるビオトープ、芸術と自然との関係が学習できる空間のほか、野外制作や作品設置など、地域貢献につながる空間の形成に努めます。
- 　金沢大学工学部跡地を横断するアクセス道路に隣接する部分に、市民や学生、教職員の憩いの空間を創出するとともに、災害時における緊急避難場所としての役割を担うオープンスペースの配置を検討します。

３　移転整備における留意事項・課題等

（１）良好な自然環境との調和を意識した整備

　移転予定地は風致地区に挟まれた地域であり、その周辺には、国史跡の辰巳用水が流れており、良好な自然環境との調和を意識した整備が必要です。

（２）既存の段差を考慮した施設整備

　移転予定地は、旧工学部の土地利用（研究棟、運動場）や隣接する道路との高さ合わせのために生じた段差があり、既存の段差を考慮した施設整備を検討する必要があります。

（３）その他

　市民にとって身近な存在となるためのアクセス整備や市民がキャンパス内を自由に散策できる動線等の検討が必要となります。

参考資料

金沢美術工芸大学移転整備基本構想検討懇話会　委員名簿

座長　水野　一郎　　（金沢工業大学教授）

とりごえ　まり（絵本作家・金沢美術工芸大学卒業生）

福光　松太郎　（金沢経済同友会副代表幹事）

前田　昌彦　　（金沢美術工芸大学理事長・学長）

宮崎　　晋　　（株式会社博報堂チーフクリエイティブオフィサー・
金沢美術工芸大学客員教授）

鷲田　清一　　（京都市立芸術大学理事長・学長）

細田　大造　　（金沢市副市長）

事務局　金沢市都市政策局企画調整課（金沢美術工芸大学建設準備室）

検討懇話会開催状況

平成 28 年 7 月 6 日　　第１回検討懇話会

・金沢美術工芸大学新キャンパス構想について
・金沢大学工学部跡地について

平成 28 年 11 月 22 日　第２回検討懇話会

・金沢美術工芸大学移転整備基本構想骨子（案）について

平成 29 年２月 21 日　　第３回検討懇話会

・パブリックコメント等について
・金沢美術工芸大学移転整備基本構想（案）について

金沢美術工芸大学移転整備基本構想

平成 29 年 2 月　策定

（お問い合わせ）
〒920-8577　金沢市広坂１丁目１番１号
金沢市都市政策局企画調整課（金沢美術工芸大学建設準備室）
TEL：076-220-2031　　FAX：076-264-2535
E-mail：kikaku@city.kanazawa.lg.jp